

# ライフケアガーデン湘南

症 例 概 要 利用者：90代 女性 要介護2

利用期間：2023年3月～2023年7月現在

主 疾 患：1, 偽痛風 2, 骨粗鬆症 3, 右尿管結石・水腎症  
4, 間質性肺炎

経 過：2023年1月頃に腰痛出現し近医にて腰椎圧迫骨折の診断を受ける。  
その10日後に痛みが増強し救急搬送され入院。両膝の偽痛風もあり炎症反応が強く治療。間質性肺炎による呼吸苦とspo2の低下が見られ酸素開始。

排尿は、バルン管理されていた。発熱症状を繰り返しており、3月上旬の検査では右尿管結石、水腎症を指摘され改善しなければ腎摘除適応ありと診断を受ける。

膀胱留置カテーテル留置、酸素1ℓ継続のままご家族の希望にて3月末に当施設に入居される。入居後、在宅医・看護師・介護士・PTとのチームプレイで酸素の離脱、膀胱留置カテーテル抜去に挑戦。入居3ヶ月で成功しご入居者の素敵な笑顔を取り戻す事ができた症例

## 内 容

2023年3月下旬に自宅での生活が困難となる。ご家族の希望もあり当施設へ入居。病院からの入居にて膀胱カテーテル留置と酸素は、継続のまま。入居1ヶ月は、施設生活に早く慣れてもらえるよう介護士・看護師は、訪室回数を増やし少しでも多くコミュニケーションが取れる時間を作った。

歩行に対しては、意欲的で訪問リハビリを積極的に行っていた。

入居されてからは、発熱症状は無く呼吸状態や排尿トラブルも無く経過する。

病院に入院される前までは、とてもアクティブに生活を送っていたと情報あり

以前のような明るさを取り戻してもらおうと、入居2ヶ月が経過し施設生活にも慣れた頃に看護師より在宅医に酸素と膀胱留置カテーテルを外してあげたいと相談し計画を立てる事にした。

### 1、酸素の離脱計画

①酸素1ℓから0.5ℓへ変更し呼吸状態を観察 ②昼間の時間帯はOFFとし夜間だけ装着。数日間実施したが、spo2の低下も無く呼吸苦の訴えも聞かれなかった。 ③spo2の低下がなければ夜間帯もOFF。夜間帯は、介護士は巡回回数を増やし異常の早期発見に努めた。看護師は、バイタルサインの測定を定期的に行い呼吸状態の観察を行った。 ④リハビリでは、労作時の呼吸状態とspo2の低下に注意しながら実施した。結果、5月中旬に酸素を外す事ができた。チューブが外れ大変喜ばれ「あとは、これがね……」と膀胱カテーテルを指さし苦笑いをされていた。

## 2、膀胱留置カテーテル抜去に向けての計画

取組みとしては慎重に行う必要があった。病院入院中には、水腎症を指摘されており腎摘除適応を診断されている。

①往診医より内服薬の調整を行う。 ②抜去日を往診日の朝に設定し、それまでは、普段の飲水量と尿量の把握をするようにした。6月下旬の朝に膀胱カテーテル抜去。抜去後自尿あり。排尿時痛や排尿トラブルは見られず。午後からの往診で診察をしてもらうが、異常は見られなかった。膀胱カテーテルを抜去してから数日が経過した現在でも排尿に関するトラブルは見られない。

入居時は、膀胱カテーテルと酸素チューブに繋がれて暗い表情だったご利用者。「チューブが外れて良かった」と満面の笑みで話されている姿を見るとチャレンジして良かったと思える症例であった。今では、リハビリでの歩行も軽やかになり笑顔で居室に戻られる日々を送っています。